

## 内容を重視した日本語演習 3 の試み —— 学習者の読みに対する意識の変化を中心に ——

### An Attempt of Content-based Instruction in Japanese Seminar 3 – Change of Learners' Attitudes to Reading –

数野恵理・嶋原耕一  
KAZUNO Eri, SHIMAHARA Koichi

#### 〔要旨〕

本稿は中級前半の学習者が日本の小説と詩について理解を深めることを目的とした、日本語演習コースについて実践内容を報告し、質問紙調査とインタビュー調査の結果を示し、学習者の読みに対する意識の変化を報告する。本コースでは、日本語学習者向けに書き直された文学作品のほか、書き直しのされていない短編小説を毎回事前に全員が読んでくることを課した。授業内では精読をせずに、担当者があらすじを発表し、グループで印象に残ったシーンなどを話したり、解釈について話し合ったりした。また、学期末に多読をし、書評ゲームのビブリオバトルをするという活動をした。質問紙調査では、非漢字圏の学習者がコースの活動を通して読むことへの自信と日本語学習や読書へのモチベーションを高めたことが示された。また、インタビュー調査からは、学習者が新しい読みのストラテジーを用いるようになったことも明らかになった。

#### 〔Abstract〕

This paper reports a practice on a content-based seminar to deepen Japanese intermediate-low learners' understanding about Japanese novels and poems, and shows the change of learners' confidence and motivation by questionnaire and interview. Students read various short novels, from graded readers to authentic materials, and discussed the contents and shared feedback with classmates. Also, at the end of the semester, they did Extensive Reading of graded readers and had a "Biblio-Battle". The result of the questionnaire shows that these activities have helped learners from non-kanji-using countries gain confidence in reading Japanese and motivation to learn Japanese. And, the result of the interview shows that the learner used new reading strategy through this course.

**Key word:** 中級前半、多読、自信、モチベーション、読みのストラテジー



intermediate-low, extensive reading, confidence, motivation, reading strategy

## 1. はじめに

立教大学では、日本語を道具として何かを学びたいという日本語初級・中級の学生のために、それぞれのレベルに応じた日本語でコンテンツを学ぶことのできる、内容重視の3つの日本語演習科目が開講されている（立教大学日本語教育センター 2017a）。「日本語演習1」では立教大学のJ2とJ2S（初級半ば）の学生が日本のアニメと歌を通して、「日本語演習2」ではJ3とJ3S（初級終わり）の学生が日本の映画とマンガを通して、日本の文化と社会について学ぶことができる。本稿で報告する「日本語演習3」（以下、演習3）は、中級前半のJ4とJ5の学生が日本の小説と詩の理解を深める内容重視のコースである。

以下、第2節で2017年度春学期に行った演習3の実践概要を報告し、第3節でコース終了後に実施した質問紙と半構造化インタビューによる調査の結果と考察を、第4節で今後の課題を述べる。

## 2. 2017年度春学期の「日本語演習3」の実践

本節では演習3の実践について、まずそのコース概要を説明し、続けて、指定した短編小説を読んで話す活動、多読とビブリオバトル、詩の鑑賞と発表について説明していくこととする。

### 2.1 コース概要

演習3の目標は、履修要項にある通り「参加者が、『道具』として日本語を用いることによって、授業を理解し、日本の小説や詩についての理解を深めることを目指す」ことである（立教大学日本語教育センター 2017a）。対象は前述のように、初級の文法と語彙を習得してJ4またはJ5にプレイスされた学生である。2017年度春学期の履修者は10名で、国籍はアメリカ2名、イギリス1名、スペイン3名、タイ1名、ドイツ2名、デンマーク1名で、全員が非漢字圏の出身だった。日本語のレベルはJ4が3名、J5が6名、J4とJ5の混ざった学生が1名だった。このうち正規の大学院生1名（ドイツ、J5）は大学院のコースが忙しくなり、学期の半ばで受講を断念し、後半は受講者9名となった。本コースではコース目標を達成するために短編小説、詩、俳句などを取り上げ、それぞれの理解を深める活動をした。成績は出席・参加度、課題の遂行とその内容を評価し、日本語力については評価対象としていない。スケジュールは表1に示す通りである。

表1 2017年度春学期 演習3スケジュール

週	授業内容
1	オリエンテーション、俳句・川柳・短歌
2	「蜘蛛の糸」『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』
3	「鼻」『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』
4	「走れメロス」①『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』
5	「走れメロス」②『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』
6	「ふわふわ」村上春樹
7	「デューク」江國香織
8	「バブーシュカ」よしもとばなな
9	「かっぱ」「いるか」「わたしたちの星」「生きる」など 谷川俊太郎
10	「贈り物」池澤夏樹
11	ビブリオバトルの説明、1回目の多読
12	相田みつをの書、俵万智の短歌
13	ビブリオバトル、振り返り
14	ビブリオバトル、2回目の多読 *レポート提出

## 2.2 指定した短編小説を読んで話す活動

小説を扱う週は毎回、指定した小説を読んでくると印象に残ったシーンを3つ選んでくることを予習形式の宿題として課した。J4レベルの学生1名が2度ほど途中までしか読んでこないことがあったが、それ以外の学生は毎回しっかりと課題に取り組んできた。

授業は教師主導ではなく、学習者が主体となり協働的に学習を進められるようにした。内容重視ということで、2016年度までの進め方に倣い、授業では精読をせず、担当の学生があらすじについて発表をし、教員が作家や時代背景を紹介し、そのあとグループで話し合いをした。グループでは内容の確認、印象に残ったシーンの共有、疑問に思った点の話し合いをし、最後にクラス全体でも共有した。

扱った作品は表1に示した通りだが、学期のはじめは学習者向けに書き直された『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』からレベル3の「蜘蛛の糸」「鼻」（芥川龍之介）、レベル4の「走れメロス」（太宰治）を取り上げ、書き直しのない生教材への橋渡しとした。この時点ではNPO多言語多読（2011）が提唱する多読のルールには触れなかったが、知らない言葉があっても推測して読み進めればよいことは伝えた。学期中盤の第6週からは「ペット」「恋人」「家族」「留学」といった学習者にとって身近な話題の生教材、「ふわふわ」（村上春樹）、「デューク」（江國香織）、「バブーシュカ」（よしもとばなな）、「贈り物」（池澤夏樹）を読んだ。生教材は難易度が高いため学習者が困難を感じる事が予想されるが、学習者には、大意をとって、印象に残ったシーンが選べればよいことを周知した。基礎的な漢字以外は振り仮名を振ったが、語彙リストは与えなかった。

2016年度までは、多読ライブラリーの読み物を二つ読んだ後、春学期はよしもとばななの「キ

ツチン」、秋学期は村上春樹の「トニー滝谷」という、やや長い短編小説を5週程度かけて扱い、最後に映画を鑑賞し、小説と映画の比較が行われていたが（立教大学2017b）、2017年度春学期は原則毎週読み切りとした。映画との比較ができなくなるが、江田他（2005）が短編小説を使った多読授業の報告で述べているように、好みでない作品や難易度の合わない作品があった場合に長期間同じものを読む負担を避けるため、また、さまざまな作品を読む機会を設けるために読み切りがよいと考えた。多くの作家の作品に触れれば、コース終了後に自分で何か小説を読みたいと思ったときに、小説を選ぶ助けとなり、自律学習にも繋がると考えた。

### 2.3 多読と書評ゲーム「ビブリオバトル」

第10週までは教員が選んだ読み物を全員が読んできて授業でそれについて話すという活動をしてきたが、2017年度は学期末に多読と書評ゲーム「ビブリオバトル」を取り入れた。NPO多言語多読（2011）で提唱されている、「やさしいレベルから読む」「辞書を引かないで読む」「わからないところは飛ばして読む」「進まなくなったら、他の本を読む」という4つのルールに則って読み進めるよう指示し、学習者に自分で読みたい本を選ばせた。

ビブリオバトルは山路他（2013）が日本語パブリックスピーキングのクラスで実践し、本の選択によっては初中級の学習者でも可能であること、学習者のモチベーションを高め、聞き手の理解と共感を得る技能が育成できることを示唆している。演習3ではこのビブリオバトルを多読と組み合わせ、学習者向けに書き直された多読用の小説の中から好きなものを紹介させた。中級前半では、書き直しのない生の小説を紹介すると、発表で使用する語彙が難しくなってクラスメートが理解しづらくことが懸念されるが、多読用の小説はやさしい日本語で書かれているため、クラスメートも発表を理解しやすくなる。また、発表を聞くことで、次に読む本が見つかるのもよいと考えた。

第11週の授業では多読を始める前に、学期末の課題を改めて説明した。この日の授業あるいは授業後に読んだ多読用の小説の中から、クラスメートに勧めたいものを一つ選び、学期末の第13,14週にビブリオバトルで紹介し、最終日にレポートを提出するという内容である。

また、ビブリオバトルはビブリオバトル普及委員会（2013、7）によって提唱されている以下の公式ルールに則って実施することを説明した。

- (1) 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
- (2) 順番に一人5分間で本を紹介する。
- (3) それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
- (4) 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなかったか？」を基準とした投票を参加者全員1票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

投票の方法については挙手制と投票用紙制のうち、投票用紙制を採用し、無記名で実施した。前述の公式ルールその他、ビブリオバトル普及委員会（2013）はレジュメやプレゼンテーションの資料は使用せずに本だけを持って話すことが原則であるとしているので、演習3でもこれに従

った。ただし、多読用の本には挿絵があるので、聴衆の理解を助けるために本の絵を見せることを推奨した。

5分間の発表の構成は「イントロ、あらすじ（結末以外）、おすすめのポイントや感想1、おすすめのポイントや感想2、まとめ」とするとよいが、別の構成でもよいとした。レポートは発表原稿ではないこと、書き言葉を用いて小説の題名、作者、あらすじ、感想を1000字程度でまとめることを伝えた。また、ビブリオバトルでは話の結末を言うと読みたいという気持ちがなくなるので結末は伏せるが、レポートでは最後まであらすじをまとめるよう求めた。また、発表の際は情報カード1枚にメモを書いてそれを見ながら話してもよいことにした。

この説明の後、『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』と『にほんご多読ボックス』のレベル2～4の小説の中から各自好きなものを選んで多読をする時間を50分間設けた。授業の最後には全員で図書館に行き、ビブリオバトルで紹介したい本が決まっている場合はその本を、もう少し他の本も読んでみたい場合は新しい本を借りさせた。

多読の時間にどの小説を読んだかという読書記録は書かせていないが、ビブリオバトルでは以下の小説が選ばれた。9名うち1名がレベル2、5名がレベル3、3名がレベル4の小説を紹介している。

レベル2「桃太郎」『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』

レベル3「梨とり兄弟」『日本語多読ボックス』

「小泉八雲の怖い話 むじな／幽霊滝」「日本の神話 古事記より」「魔術」「よだかの星」『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』

レベル4「羅生門」『日本語多読ボックス』

「杜子春」「雪女」『レベル別日本語多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』

最終週はビブリオバトルの後で、再度多読の時間を設けた。この日はクラスメートが紹介した小説を読む学生も別の本を読む学生もいた。最後に、帰国前に小説を購入したいので紹介してほしいという要望に答え、小・中学生向けに漢字に振り仮名の振られた小説などを紹介した。

## 2.4 詩の鑑賞と発表

詩は初日に俳句・川柳・短歌を紹介し、その場で俳句または川柳を作って、翌週発表させた。それ以降、2016年度までのやり方に倣い、毎週授業の冒頭に担当者が一人「伊藤園おーいお茶新俳句大賞」のウェブサイトから好きな俳句を選んで紹介するという活動をした。また、第9週は谷川俊太郎の詩を鑑賞して同じ形式で書いた詩を発表し、12週目は相田みつをの書と俵万智の短歌を鑑賞した。

### 3. 学習者への質問紙調査とインタビュー調査

#### 3.1 調査方法と対象

2017年度春学期の演習3の実践内容を評価することと、本コースを通じた学習者の意識の変化を調査することを目的として、最終授業の後で学習者に質問紙調査とインタビュー調査への協力を依頼した。インタビュー調査の協力者はタイの学生1名のみだったが、質問紙調査は途中で受講を断念した大学院生1名を除く9名全員からの回答を得た。

質問紙調査は2017年7月14日の最終授業終了後に実施した。回答は記名、無記名どちらでもよいこととした。質問紙は日本語で作成したが、自由記述欄の回答は日本語でも英語でもよいこととした。インタビュー調査は事前に回答してもらった質問紙をもとに、最終授業の翌週の2017年7月20日に数野が30分程度の半構造化インタビューを録音して実施した。

#### 3.2 質問紙調査の結果と考察

質問紙では主にコース受講の動機と、コースに対する評価、学習者の意識の変化を質問した。表2に、7つの質問項目に対する学習者A～Iの9名の回答を示す。自由記述の回答については研究者の側で、英語から日本語への翻訳、日本語の誤りの修正、回答の要約を行っている。

表2 質問紙調査の結果

① このクラスを取ろうと思ったのはなぜですか。(選択・複数回答可)
1. 日本語の小説を読んでみたかったから (4名: C, D, E, I) 2. 日本語の詩を読んでみたかったから (1名: B) 3. 日本語が上手になりたかったから (7名: A, C, D, E, G, H, I) 4. 単位が必要だから (2名: D, F) 5. その他 (1名: H. 翻訳者になりたいから)
② このクラスでは全員で同じ小説を読みました。同じものを読むことのいい点と悪い点を教えてください。(自由記述)
<いい点> A. 色々な本が読める。コンテンツはいいと思う。 B. クラスメートと本について話せた。 C. みんな一緒に話し合うことができる。 D. 翻訳する練習ができた。日本人の考え方が表現されていた。面白かった。 E. 一緒にその本について話せる。分からないシーンについて聞いて、説明してもらえる。 F. 友達と小説について話せた。 G. グループで話し合える。 H. 分からなければ、友達と本について話せる。 I. 記入なし
<悪い点> A. 本を読んでばかりでちょっとつまらない。 B. 時々小説はあまりよくなかったと思う。 D. 「バブーシユカ」はよくなかった。わからない文法があったのでちょっとフラストレーションを感じた。 G. よく同じことを言うので、グループで話すことはだんだんつまらなくなる。 C, E, F, H. ない。 I. 記入なし

<p>③ 学期の最後に、日本語学習者向けの小説の中から自分で読みたいものを選んで、読みました。どうでしたか（5段階評価）。どうしてですか（自由記述）。</p>
<p>平均 4.4/5</p> <p>5. とてもよかった（6名：A, B, C, D, E, G）</p> <p>A. つまらなくない。興味があるので、その本が読みたい。</p> <p>B. 選べるのが好きだった。</p> <p>C. 書いて話すのは簡単だった。</p> <p>D. 辞書を使わずに短編小説が読めるほど日本語が上手になるとは思っていなかった。本当に自信がついた。母校に戻ったら秋学期は日本語のクラスを取れないが、来学期自分で読むために、日本でマンガと本を何冊か買って帰るつもりだ。</p> <p>E. 読みやすく、面白いトピックだったので。</p> <p>G. 読みたい本を読んだから。</p> <p>4. よかった（1名：I）</p> <p>3. どちらでもない（2名：F, H）</p> <p>2. よくなかった（0名）</p> <p>1. ぜんぜんよくなかった（0名）</p>
<p>④ ③の小説をクラスメートに紹介するビブリオバトルをしました。どうでしたか（5段階評価）。どうしてですか（自由記述）。</p>
<p>平均 3.4/5</p> <p>5. とてもよかった（1名：C）</p> <p>4. よかった（3名：D, G, I）</p> <p>D. 自分の本と発表に特に影響がなかったが、楽しかった。</p> <p>G. 楽しかった。</p> <p>3. どちらでもない（4名：A, B, E, F）</p> <p>B. 本を選ぶ時、あまり時間がなかった。もっとよく選んだらいいと思う。</p> <p>E. プレゼンテーションがあまり好きではない。</p> <p>2. よくない（1名：H）</p> <p>H. 頑張ったが、誰も私の小説が好きではなかった。私も私の小説が好きではなかった。</p> <p>1. ぜんぜんよくない（0名）</p>
<p>⑤ このクラスをとって、何か変わりましたか。（選択・複数回答可）</p>
<p>1. 日本語を読むことに自信がついた（9名全員）</p> <p>2. 日本語を話すことに自信がついた（2名：E, H）</p> <p>3. 日本語を勉強するモチベーションが上がった（5名：A, C, D, E, F）</p> <p>4. 日本語での読書が楽しくなった（5名：B, C, D, E, G）</p> <p>5. もっと日本語学習者向けの本を読みたいと思うようになった（5名：A, D, E, G, H）</p> <p>6. もっと原作の日本語の本を読みたいと思うようになった（5名：A, D, E, G, I）</p> <p>7. その他（1名：I. 村上春樹『不思議な図書館』を読み切った。）</p>
<p>⑥ このクラスでよかったことは何ですか。（自由記述）</p>
<p>A. あまりストレスがない。日本語が勉強できる。</p> <p>B. 先生とクラスメートは楽しかった。</p> <p>C. プレッシャーを感じずにすべての活動ができた。読むスキルとスピードがとても上がった。</p> <p>D. 人数が少なく感じのいいクラスで、プレッシャーもなく、リラックスできた。読む力が伸びて自信がついた。リラックスして楽しめるクラスだった。</p> <p>E. 学習するのにいい雰囲気だった。</p> <p>F. 日本の文学について学んだ。読む力が上がった。</p> <p>G. 読んだ本はとても面白かった。</p> <p>H. 宿題がそんなに難しくなかった。日本語で読めるようになった。</p> <p>I. 本を読むという経験ができた。</p>

⑦ このクラスについて改善したほうがいいところは何ですか。(自由記述)
A. ビデオの視聴など読む以外の活動がほしい。 B. 長すぎる小説は全部読めなかったので、やらない方がいい。 I. グループワークに変化がほしい(同じ活動では退屈に感じる人がいるかもしれない)。 C, D, E, F, G, H. 記入なし

受講動機については、①において2を選択した学生は1を選択した学生とは別の学生であることから、受講者の半数を超える5名が日本語の小説または詩に興味を持っていたことがわかる。これは、「内容を学ぶための科目」というコースの目的にも合致する。だが、日本語が上手になりたいという理由で受講した学習者の方が7名と多い。大半の受講者は日本語を道具として使ってコンテンツを学ぶことにより日本語力を身につけたいと考えていたことがわかる。

第10週までの全員で同じ小説を読む活動については、②の結果が示すように、9名中6名がグループでクラスメートと同じ小説について話せることを良い点として挙げている。自分のわからない点についてグループ内で確認できることを挙げている学習者もあり、協働的学習ができていることがうかがえる。しかし、指定されたコンテンツがいい、面白いという回答がある一方で、時々よくない小説があるという回答もあった。

第11、14週に実施した多読に関しては、③の結果から、5段階評価の平均が4.4で、3分の2の学習者が「5. とてもよかった」と回答していることがわかる。自分で読む本を選べること、辞書を使わずにすらすら読めたことで日本語力がついたことを実感したことが理由として挙げられている。学期のはじめにも学習者向けに書き直された多読用の小説を読んだが、学期中盤に書き直しのされていない、より難しい小説を読んだ後で、再び多読用の小説を読んだことで実力がついたことを感じたのではないと思われる。

多読で読んだ小説を紹介するビブリオバトルについては、④の結果が示すように、5段階評価の平均が3.4で、「3. どちらでもない」を選んだ学習者が4名と最も多く、評価がやや低くなっている。「2. よくない」を選択した学習者Iは誰も自分の小説が好きではなかったことと、自分自身も好きな小説ではなかったことを理由として書いている。実際の投票では、誰にも選ばれない小説はなかったのだが、他の小説に比べて人数が少なかったということのようである。また、本来、ビブリオバトルは自分が面白いと思った本を紹介するゲームであり、演習3でも第11週の授業で読んだ小説が後日読んだ小説の中で気に入ったものを紹介するように指示したが、学期末の課題ということもあり、学習者Bも指摘しているように、好きな本を選ぶ時間的な余裕がなかったと思われる。

演習3受講後の意識の変化についてだが、⑤で9名全員が「読むことに自信がついた」を選択していることに注目したい。また、「日本語を勉強するモチベーションが上がった」学生も5名いたことがわかる。この項目を選択していない学習者が4名いるが、その内3名(G, H, I)は「もっと日本語学習者向けの本を読みたいと思うようになった」または「もっと原作の日本語の本を読みたいと思うようになった」を選択していることから、9名中8名は日本語を勉強するモチベ

ーション、あるいは日本語での読書に対するモチベーションがコースを通じて上がったと言える。また、「日本語での読書が楽しくなった」を選択している学習者も過半数（5名）いる。モチベーションが上がったとは回答していない学習者Bも日本語での読書が楽しくなったと回答している。また、その他の欄に記述があるように、クラスでも取り上げた作家、村上春樹の別の小説を購入して、学期中に1冊読み切った学習者もいた。

このクラスのでよかった点としては、⑥が示すように、読む力が伸びて自信がついたこと、クラスの雰囲気がよくプレッシャーやストレスを感じずにリラックスして取り組めたこと、クラスで扱った内容がよかったことを挙げる学習者が多かった。日本語の形式面にこだわらず、日本語を道具として用いてリラックスした状態で読書をしたことが、その内容を楽しむことを可能にしたと思われる。

クラスの改善点としては、⑦の回答から、コースで扱う読み物の難易度の調整、及びグループワークに変化をつけ学生を飽きさせないための工夫が必要であることがわかった。「バブーシュカ」（よしもとばなな）については授業でも、難しすぎるというコメントが学習者から出ており、難易度が高すぎたことがわかる。語彙はそれほど難しくもないものの、過去の回想が入ったり、感覚的な話ができてきたりすることもあり、このレベルの学生には適していなかった。話の展開がわかりやすい、レベルに合った教材を選んでいくことが今後の課題である。また、④からは、ビブリオバトルのための本の選定に十分な時間が必要であることがわかった。

### 3.3 インタビュー調査の結果と考察

質問紙調査の1週間後、1名の協力者に半構造化インタビューを実施した。協力者は質問紙に名前を書いていたため、質問紙の結果を見ながら、インタビューを行った。質問紙の回答者Aである。Aはタイからの留学生で、2016年秋学期と2017年春学期の1年間留学している。2017年春学期は演習3の他、日本語科目はJ5文法、J5読解、J5聴解会話、J5作文、総合日本語4-6A、総合日本語4-6Bを履修したということである。

Aは質問紙調査においてビブリオバトルはどうだったかという質問に対して、5段階評価の「3. どちらでもない」と回答し、コメントを残していなかった。これについてインタビューで尋ねると、話す時間が短く情報が足りないので、本の内容があまりわからず、読みたいかどうかわからないと答えた。しかし、その後、全員で同じ小説を読むことと一人一人違う小説を読むことについてどう思うか、比較して答えてもらった際には、以前は日本の小説をあまり知らなかったが、一人一人違う本を読む活動では友だちが本を紹介した本を次に読んでみたいと思ったと回答した。実際、最終授業で行った2度目の多読ではクラスメートがビブリオバトルで紹介した「日本の神話」を読んだという。また、別のクラスメートが紹介した「日本の怖い話」についても言及し、「日本の神話」と「日本の怖い話」を通して日本の文化への理解が深まったと答えた。最初にビブリオバトルでは本の内容があまりわからないと言っているものの、実際にはそこで紹介された本に興味を持って最終日に読んでおり、別のクラスメートの発表からも文化について学んでいること

がわかる。

第10週までの指定された本を全員が読む活動については、質問紙調査の②で、様々な本が読めること、コンテンツがいいことを良い点として挙げている。インタビューでは、様々な国の学生がいてそれぞれ考え方が違うこと、グループでは異なる意見とその理由を説明し合って新しい考え方を聞いたことがよかったと答えている。また、小説のある部分について自分が理解できないとき、理解している友人が説明してくれたので理解できたという。

一人一人好きな本を読む活動では1) 興味がある本を読み、2) クラスメイトからの紹介で新しい本を読もうという気持ちになること、全員が同じ本を読むことについては1) よい内容のものをいろいろ読めること、2) グループで理解を補い合えること、3) 異なる考え方をシェアできることから、クラスでは両方の活動を行うことに賛成だという。ただし、質問紙での回答にもあったように、小説を読むだけでなくビデオを見る活動もあるといいということだ。

このクラスを受講したことによる意識の変化について、Aは質問紙調査で「1. 読むことに自信がついた」、「3. 日本語を勉強するモチベーションが上がった」「5. もっと日本語学習者向けの本を読みたいと思うようになった」「6. もっと原作の日本語の本を読みたいと思うようになった」を選択していた。インタビューで詳しく尋ねると、1) 小説を読むことで日本語をもっと勉強したい気持ちになった、2) 文法の勉強ではなくて本を読むことはあまりストレスがない、3) ストーリーが面白いので読み続けたいと思ったと述べた。以前Aはあまり本を読むタイプではなく、仮に芥川龍之介の「鼻」を知りたいと思ったらインターネットで動画を見たと思うが、今は本を読もうという気持ちになったという。このクラスでは学習者向けに書き直された「鼻」を読んだので、図書館で原作を見つけたら原作にもチャレンジしたいという。また、このインタビュー調査の後で本屋に寄って日本の小説を探すつもりだと述べた。日本語学習者向けに書き直された小説については、帰国後アクセスできないことも多いが、質問に対し、タイの送り出し校の日本語の図書館には『レベル別多読ライブラリー にほんごよむよむ文庫』の本があると答えた。来日前に読んだことはなかったが、置いてあるのを見たことがあるということだ。

質問紙調査では読む力が伸びたと思うかという質問をしていないが、そのような回答をした学習者もいたので、演習3を受講して読む力が伸びたと思うか尋ねると、伸びたと感じると答えた。演習3の受講前後で読み方、ストラテジーが変わったかどうか質問すると、変わったと回答した。以前はわからない言葉があったらすぐに辞書で調べていたが、今は「まあ、いっか」と思い、続きを読んで、この意味かもしれないと推測するという。そして全部読んでからもう一度読み返し、わからないことは辞書で調べ、合っているかどうか確認するという読み方をするようになったということである。日本語学習者向けに書き直された小説だけでなく、書き直されていない小説や他のクラスの読み物についてもこのような読み方をするようになったそうで、これはいい読み方だと思うということである。

本を読むということはクラスを履修せずともできるが、クラスを取ることの良い点は何か尋ねた。すると、Aはもともと本を読まないのでもしクラスを取らなければ本は読まなかったし、

日本の小説もあまりわからなかったと答えた。授業を取ったからこそ本を読もうと思ったという。

以上のように、Aは文脈から言葉の意味を推測しながら読み進め、必要な場合は最後に意味を確認するという新しい読みのストラテジーを身につけ、それを小説以外の読みにも応用していること、読む力が伸びたと実感していることがわかった。また、ストレスを感じずに、面白いストーリーを読むということで、日本語での読書や日本語学習へのモチベーションが上がったこともわかった。さらに、そのモチベーション向上が、インタビュー後の書籍購入や帰国後の読書継続などの具体的な行動につながる可能性も、インタビュー調査をしたからこそ記すことができた。

#### 4. おわりに

このようなリラックスした雰囲気で行われる内容重視のコースは、中級前半の非漢字圏の学習者たちが読書を楽しみ、日本語での読書や日本語学習に対するモチベーションを高め、読みに対する自信をつけることを助けることが示唆された。また、インタビュー調査からは、学習者Aが新しい読みのストラテジーを身につけたこと、読む力が伸びたと感じていることが明らかになった。

学習者たちは概ねコースに満足していると言えるが、改善点についても示唆が得られた。第一に、中級前半の生教材を選定する際には語彙の難易度と話題の身近さだけでなく、話の展開のわかりやすさなども考慮する必要がある。第二に、グループワークも毎回同じような活動ではなく、話の続きを考えさせるなど、変化をつけ学生を飽きさせないための工夫が必要である。詩の時間にはビデオも視聴したが、小説を扱うときにも、何かビデオが見せられるとよいかもしれない。第三に、ビブリオバトルは、本来、好きな本を紹介する活動なので、本を選ぶまでに十分な時間を確保することが望まれる。最後に、研究課題だが、読みのストラテジーの習得と読解力の向上については調査が不十分である。これについては稿を改めて論じたい。

#### 参考文献

- NPO 多言語多読 (2011) 「多読実践方法」 < <http://tadoku.org/learners/l-method> >
- 数野恵理・嶋原耕一 (2017) 「小説の理解を深める中級前半日本語の演習コースの試み」『日本語教育方法研究会誌』 Vol.24 No.1、40-41
- 江田すみれ・飯島ひとみ・野田佳恵・吉田将之 (2005) 「中上級の学習者に対する短編小説を使った多読授業の実践」『日本語教育』 126号、74-83
- ビブリオバトル普及委員会編 (2013) 『ビブリオバトル入門～本を通じて人を知る・人を通して本を知る～』 情報科学技術協会
- 山路奈保子・須藤秀紹・李セロン (2013) 「書評ゲーム『ビブリオバトル』導入の試み——日本語パブリックスピーキング技能育成のために——」『日本語教育』 155号、175-188
- 立教大学日本語教育センター (2017a) 「講義内容 (シラバス)・日課表・履修規程」

< <https://cjle.rikkyo.ac.jp/syllabus/> >

立教大学日本語教育センター（2017b）「活動報告」 < <https://cjle.rikkyo.ac.jp/reports/> >

\*本稿は、第49回日本語教育方法研究会において報告したポスター発表の内容に、加筆、修正したものです。